

# 飯伊 産業経済動向

No.454 2017/1  
(29. 2. 25 発行)



IIDA SHINKIN BANK  
飯田信用金庫  
経営相談所

http:// www. iidashinkin. co. jp  
〒395-0044 飯田市本町1-2  
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

## 飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数		前月比		前年同月比	
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	3,950	枚	△	0.6 %	7.6 %	
	金額	5,080,674	千円		8.1 %	22.9 %	
うち不渡発生状況	枚数	4	枚	(前月 0 枚)		(前年同月 1 枚)	
	金額	682	千円	(前月 0 千円)		(前年同月 401 千円)	
倒産件数 (負債額1千万円以上)	県内	6	件	(前月 5 件)		(前年同月 7 件)	
	飯伊	2	件	(前月 1 件)		(前年同月 0 件)	
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(12月)		50	戸		0.0 %	6.4 %	
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(12月)		1.64	倍	(前月 1.56 倍)		(前年同月 1.43 倍)	
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	2,012	台	△	3.4 %	△	8.5 %
	中古車	387	台	△	30.6 %	△	11.2 %
軽自動車新規登録台数 (長野県自動車協会)(12月)	新車	3,680	台	△	5.6 %	△	0.8 %
	中古車	753	台	△	2.7 %	△	4.4 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	103,161	台	△	8.7 %	△	0.6 %
	出	102,817	台	△	11.1 %	△	0.4 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	67,019	台	△	13.9 %		2.4 %
	出	63,155	台	△	18.5 %		4.1 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	13,401	台		10.9 %	△	11.7 %
	出	13,622	台		9.0 %	△	10.9 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	35,087	台	△	8.1 %	△	3.4 %
	出	33,573	台	△	14.1 %	△	4.0 %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		116	件	△	43.7 %		3.6 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		4	件	(前月 6 件)		(前年同月 4 件)	
高速バス乗車人数	飯田～新宿	26,478	人	△	6.2 %		4.3 %
	飯田～名古屋	17,070	人	△	5.6 %		4.2 %
	飯田～長野	8,568	人	△	0.4 %	△	2.1 %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,266	人	△	13.3 %		7.0 %
	右回り	3,326	人	△	14.0 %		6.1 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (<http://www.iidashinkin.co.jp>) に全文掲載しています ◆

本誌は、当相談所が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみなさまとともに進めています。



再生紙を  
使用しています

# 概況

## 製造業

1月の製造業の業況判断指数(DI)は、プラス13.3で、前月から0.5ポイント下降。翌月予測はプラス20.7で、前月から4.0ポイント上昇している。

電気、精密機械器具の販売の前月比は、横ばい～やや増加との声が多い。一部にやや減少との声もあるが、こうした業者でも「休みがあって多少減ったが、次月以降は増加の見込み」など景況感の悪化には至っていない。半導体、液晶製造装置向け部品の受注、販売の前月比は、一部にやや減少との声もあるが、やや増加～増加との声が多く、景況感が好転した業者も少なくない。産業機器や医療機器等部品の受注の前月比は、やや増加との声が多い。「ロボット関係受注増」などの声が聞かれ、景況感が好転した業者も少なくない。こうした中、「短納期化が進んでいる」との声が聞かれたほか、複数の業者から製品価格が下降しているとの報が寄せられた。建築用金属製品の売上は、前月比、前年比ともやや減少、景況感も悪化との声が寄せられた。自動車向け部品の販売は、前月比、前年比とも業者により増減分かれるが、景況感に動きは見られない。一部に、先行きの増加を見込む声も。「アメリカ大統領の政策で、日本の基幹産業である自動車業界が大きく揺れることは想像に難くない」との声。小型電磁機器の販売は、前月比やや減少～横ばい。一部に前年比は増加との声も聞かれたが、当月の景況感に動きは見られない。FA関連モーターでは、景況感の好転には至らないものの、「産業機械向け、車載向けとも微増で推移」しており、先行きもこうした基調が続く見込みとの声が寄せられた。電気、電子製品では、「引き合い、問合せが増えている。年度の切り替え時期で予算取りのためのものと思われる。来期に期待」など景況感も好転との声が寄せられた。

## 地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上の前月比は減少～横ばい、前年比はやや減少との声が多い。「上向いてきたと感じる」との声の一方、「定番の動きが低調。春物もスタートが良くない」などの声も。「年末を過ぎ商売は閑散としている」時期にある水引製品の販売の前年比は、やや増加との声が多い。漬物の販売は、前月比、前年比とも減少との声が寄せられた。雇用面で「募集しても、なかなか応募がない。業種的に労働集約型の部分もあり、先を見た採用を行っていく」との声が聞かれた。

## 建設業

1月の建設業の景況DIは、マイナス18.8で、前月から7.9ポイント上昇。翌月予測DIは、マイナス13.3で、前月より0.8ポイント下降している。

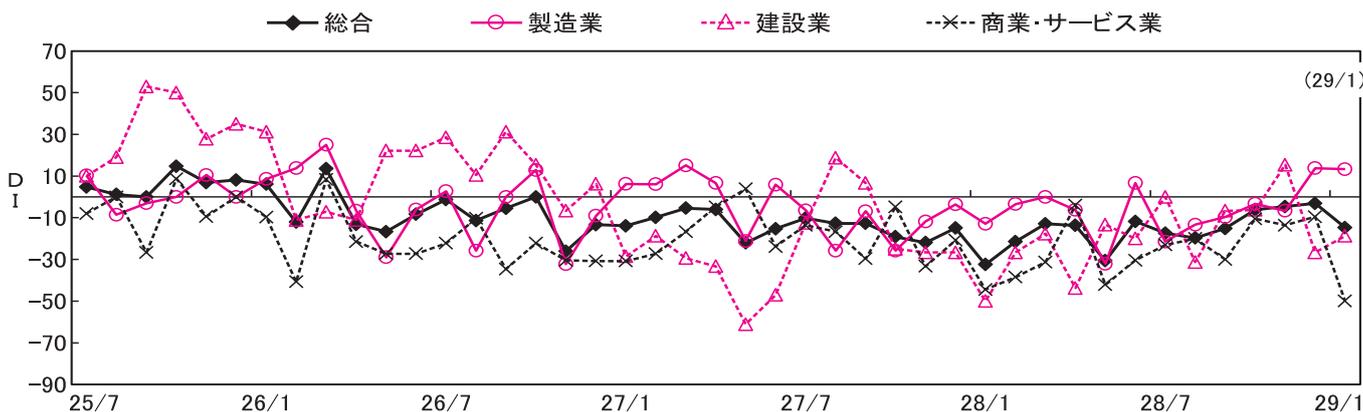
当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約14.3億円で、前月比は25%増加、前年比も71%増加している(2月15日調査時点)。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、「年末年始に完成物件が集中し、受注残は減少」「補正予算が思ったほど付かない」など、やや減少～横ばいとの声が多い。

民需の住宅着工戸数(12月)の住宅着工戸数は50戸。前月比横ばい、前年比は6%増加している。当月の調査先業者の受注残高の前月比は、一部にやや減少との声も聞かれたが、横ばい～増加との声が多く、景況感が好転した業者も複数見受けられた。「リニアに関連して土地や民需が動き出し、活発になりつつある模様」「民間はリニューアル、設備投資がやや増えている」などの声が寄せられ、「公共工事依存度が高い業者は仕事が薄い様子で、住宅以外の民需主体の業者との受注格差が大きくなっていく」との声が聞かれた。

## 商業・サービス業

1月の商業・サービス業の景況DIは、マイナス50.0と、前月より40.5ポイント下降。翌月予測DIも、マイナス25.0で、前月より9.2ポイント下降している。食料品の売上の前年比は、一部にやや増加との声もあるが、やや減少との声が多い。「高齢者による買い物困難者が増加傾向にあることが売上減少の原因として考えられる。また、相変わらずの景気低迷等により業者による購入額も減少している」等の声。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや減少。家事用品卸の売上の前月比は、季節要因もあってやや減少、前年比はほぼ横ばいとの声。家電の売上は、前月比やや減少、前年比は増加。衣料品の売上の前年比は、「昨年は改装セールがあった」ことなどからやや減少との声が寄せられた。娯楽用品の売上は、「前月が年末商戦期であったため前月比は大幅ダウン。前年比は変わらず」という。土産物関連の売上は、前月比減少～やや減少。松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比3%減少、前年比も9%減少。28年12月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は前月比6%減少、前年比も1%減少。市内料理店の売上の前年比は、概ね横ばい。市内旅館の売上は、景況感の悪化には至らないものの、前年比やや減少という。「オフシーズンに入った」昼神温泉の売上は、前月比減少。「暮、正月は半年並みだったが、3日以降は低迷。従業員を休ませている」などの声が寄せられた。タクシーの売上は、前月比、前年比ともやや減少との声。「夜間の需要が全く戻らない状況」という。

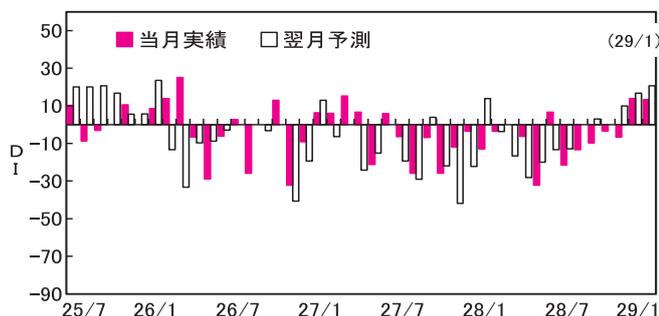
飯伊地区景況DI (本誌調査)



# 製造業

## 地区内製造業の景況判断指数

### 飯伊地区景況DI（製造業）



当月実績	13.3	(前月 13.8)
翌月予測	20.7	(前月 16.7)

当月の製造業の業況判断指数（DI）は、プラス13.3で、前月から0.5ポイント下降。翌月予測はプラス20.7で、前月から4.0ポイント上昇している。

「官民ITS構想・ロードマップ2016」では、「交通事故死傷者の低減、渋滞緩和による環境負荷低減、高齢者等交通制約者の移動支援や地方活性化といった社会的意義と、自動車産業の競争力向上や関連市場等の拡大といった産業的意義の両面から期待が高まっている」自動走行システムについて、準自動走行システムについては2020年までに、もしくは目途として、更に、2025年を目途として完全自動走行システムの実現期待時期が明示されている。

### 自動走行システムの実現期待時期

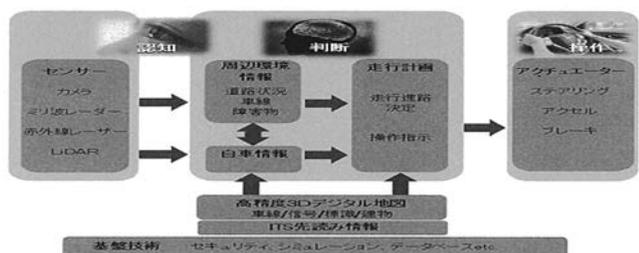
システム	レベル	特徴	実現期待時期
完全自動走行システム	レベル4	加減速・操舵・制動全てをシステムが代行し、ドライバーが全く関与しない状態	2025年を目途
準自動走行システム	レベル3	加減速・操舵・制動全てをシステムが代行する状態。但し、システムが認識した緊急状況にドライバーが対応する	2020年を目途
	レベル2	加減速・操舵・制動のうち複数の操作を同時にシステムが代行する状態	2020年まで
安全運転支援システム	レベル1		
運転支援なし			

いずれのレベルにおいても、ドライバーはいつでもシステムの制御に介入することができることが前提。準自動走行システム(レベル3)及び完全自動走行システム(レベル4)については、民間企業による市場化が可能なよう、政府が目標すべき努力の方向として設定。

(内閣府「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)自動走行システム研究開発計画」)

「自動走行システムは、認知、判断、操作」から成るが、各段階における「複数の認知情報の処理」「走行経路、運転操作の決定といった場面における、安全確保のために重要な「判断」「認知」のアルゴリズム」の重要性が増すなど、「今後益々データ駆動型になり、そのコア技術が人工知能を含むソフトウェア技術とそれを支えるデータ基盤に移行していくものと考えられる」としている。

### 自動運転の要素技術



(日本政策投資銀行「自動運転をめぐる動向」)

こうした「ドライバーに代わってシステムが運転を行う自動走行システムの進展」は、「自動車、移動サービスの付加価値の重心」が「製造事業者による垂直統合体制で生産された車両をドライバーに売る」ことから、「システムを通じて多数の車両に対して移動サービスを提供するような水平型に展開する事業者によるビジネスにシフトする可能性がある」としている。

### 自動運転におけるものづくり以外の要素



(日本政策投資銀行「自動運転をめぐる動向」)

## 機械加工製造業

電気、精密機械器具の販売の前月比は、横ばい～やや増加との声が多い。一部にやや減少との声もあるが、こうした業者でも「休みがあって多少減ったが、次月以降は増加の見込み」「同業からもあまり悪い話は聞こえてこない」など景況感の悪化には至っていない。「当月は売上が減ったが、三か月程度を通して見れば各月に幅があるのは致し方ない。次月以降はかなりの受注増が見込めそう」など、先行きは上向きと見る声が多数を占める。原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子。雇用面では概ね現状維持も、「派遣社員を増やして対応している」との声も。設備面で、「実施した」「予定あり」など積極的な声が複数聞かれた。

半導体、液晶製造装置向け部品の受注、販売の前月比は、一部にやや減少との声もあるが、やや増加～増加との声が多く、景況感が好転した業者も少なくない。「スマホ関連スポット受注増加」「製造装置は増産」「FPD関連増産」「受注増の傾向」「半導体関連、きわめて忙しい」などの声が聞かれ、多くの業者で「前倒し生産を含め」製品在庫が増加、ないしは増加見込みという。先行きもこうした傾向が続くとの見方が多い。雇用面で「やや不足。募集中」「欠員に伴う補充若干名」などの声。設備面でも「更新検討」「次月以降予定」「予定あり」などの声。原材料、資材価格に関し、当月は「一部上昇」しているものの、概ね横ばいの様子。先行きの上昇を見込む声は少ない。

産業機器や医療機器等部品の受注の前月比は、やや増加との声が多い。「ロボット関係受注増」「全般的に忙しくなってきた。特に産業用ロボット関連」「発注ロットが大きく、かつてない受注残を抱えている」「一部三交代制で二十四時間操業を検討している」「同業も皆さん忙しそうだ」などの声が聞かれ、景況感が好転した業者も少なくない。こうした中、「短納期化が進んでいる」との声が聞かれたほか、複数の業者から製品価格が下降しているとの報が寄せられた。「原材料単価急上昇」など原材料、資材価格が上昇、ないしは上昇を見込む声は多い。雇用面では、「やや不足。今後も続きそう」「パート社員複数名採用。正社員も募集中」「僅かだが増員予定」「複数名採用。今後も数名予定」など積極的な声が多く聞かれた。設備面では現状維持との声が多いが、「不足している。緊急に対応している」「機械を予定」「予定あり」などの声もあ

る。

**建築用金属製品**の売上は、前月比、前年比ともやや減少との声が寄せられた。景況感も悪化しており、これには「稼働日数が少なかった影響もあって売上減」「先々の見通しは明るいが、現状は発注遅れで受注量が減少」といった事情があるという。原材料、資材価格に関し、「まだまだ上昇傾向にある」という。雇用面、設備面で積極的な声が聞かれた。

**自動車向け部品**の販売は、前月比、前年比とも業者により増減分かれるが、景況感に動きは見られない。一部に、先行きの増加を見込む声も。「アメリカ大統領の政策で、日本の基幹産業である自動車業界が大きく揺れることは想像に難くない」との声。雇用面で「依然人手不足。ハローワーク、派遣会社問わず人材がおらず、依頼しても紹介件数は少ない。4月になれば入園、入学を期にパート希望者が見込めるとの声もある」との声が聞かれた。

**小型電磁機器**の販売は、前月比やや減少～横ばい。一部に前年比は増加との声も聞かれたが、当月の景況感に動きは見られない。先行きは、弱含みとの見方が多数を占める。一部に原材料、資材価格がやや上昇しており、この傾向が続く見込みとの声が寄せられた。雇用面で過剰感を指摘する声も。設備面では、現状維持の様子。

**FA関連モーター**では、景況感の好転には至らないものの、「産業機械向け、車載向けとも微増で推移」しており、先行きもこうした基調が続く見込みとの声が寄せられた。原材料、資材価格上昇の一方、製品価格は下降しているという。

**電気、電子製品**では、「引き合い、問合せが増えている。年度の切り替え時期で予算取りのためのものと思われる。来期に期待」など景況感も好転との声が寄せられた。「新製品開発の依頼も増えているが、要員不足」など、特に技術者の不足は深刻という。

## 地場産業

**半生菓子、菓子原料等**の売上の前月比は減少～横ばい、前年比はやや減少との声が多い。「上向いてきたと感じる」との声の一方、「定番の動きが低調。春物もスタートが良くない」「景気が上向いている感はない。むしろマイナス方向になっていると思われる」などの声も。先行きは増加を見込む声が少ない。当月、原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子も、「砂糖値上げ」など先行き上昇を見込む声が寄せられた。雇用面では、一部に積極的な声が聞かれたが、現状維持との声が多い。設備面では、「少し」「実施中」などの声がある。

「年末を過ぎ商売は閑散としている」時期にある**水引製品**の販売の前年比は、やや増加との声が多い。原材料、資材価格が上昇しており、この傾向は続く見込みとの声が寄せられた。一部に、雇用面、設備面で積極的な声も。「大手量販店の経営統合、資本提携が今後増えてくるだろう。そのとき、いかに魅力ある企業でいられるかが分かれ目になる」「お付き合いなどを避ける時代にあって、異業種分野で採用されるような新製品を開発、発信する必要がある。『昔の剣今の菜刀』ともいう。夢を託せる水引製品を見出していきたい」などの声が寄せられた。

**漬物**の販売は、前月比、前年比とも減少、「商品の包装、形態などに関してトレンドが変わりつつあるように思われる」との声が寄せられた。雇用面で「募集

しても、なかなか応募がない。業種的に労働集約型の部分もあり、先を見た採用を行っていく」との声が聞かれた。

## その他製造業

**食品関連包材**の生産は前月比、前年比ともにやや減少、景況感も悪化との声が寄せられた。原材料、資材価格に当月大きな動きはなかった様子も、先行き上昇が見込まれているという。

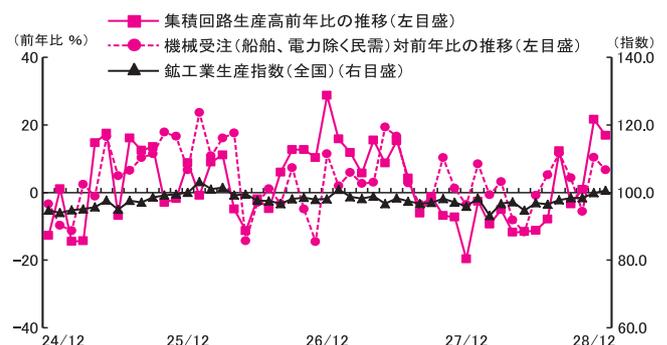
**印刷、出版関連**の売上は、「年末の売上とは比較できないほどの差」など前月比減少も、前年比は「昨年より稼働日が2日多い」こともあって増加との声が寄せられた。先行きに関し「各官庁の来年度予算のための見積りが一区切りついた。今後新年度の契約品等の入札が始まるが、これらがどのくらい獲得できるかが売上を大きく左右する」「各地域で支援金が出ているが、これらを利用した仕事をどのくらい取り込めるかが大きなポイント」などの声。雇用面で不足感があるものの、「希望する人材が難しく、継続して募集していく」との声が聞かれた。

**衣料品**では、受注残高、販売高とも、前月比、前年比ともに増加、景況感も好転との声が寄せられた。「国内工場が満杯。外注依頼が難しくなっている」などの声。「素材の難易度が上がっているが、生地不良が多数発生しており、素材の整理、検反工程の人材不足が窺える」との報が寄せられた。先行きも生産の増加が見込まれているが、「海外では、2月6日の旧正月明けから営業が始まるが、実際に工場が稼働するのは20日過ぎからと思われる。春物の投入遅れと海外生産が思うようにできないために、市中に出回る商品も制限されてくるだろう」という。当月、原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかったという。人員不足は続いている様子。設備面では当面現状維持との声。

### 【企業からのコメント】

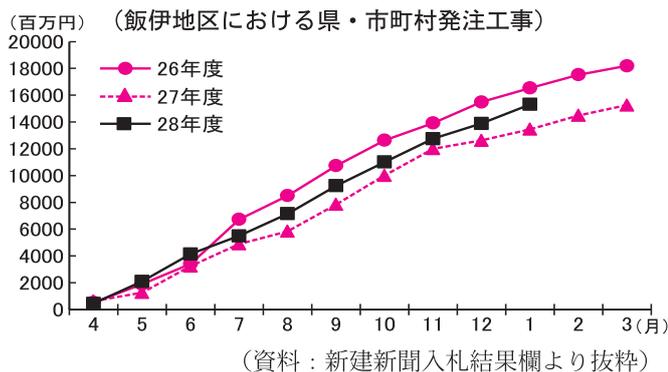
- ★1月に1名増。2月にも正社員予定。
- ★部署によって募集中。先々も増員を予定。
- ★今後1～2人採用したい。
- ★開発人員不足で外注化を検討しているが、飯伊地区では難しく、県外との取引も模索している。
- ★どこの事業所も人がなかなか集まらない様子。当地区では、短期的に多数採用する事業所があると、派遣スタッフがタイトになりやすいとの話も聞く。
- ★アメリカ大統領が経済に与える影響を注視。
- ★米国政権交代による変化を注視。
- ★米国新政権への「疑心暗鬼」で方向性が定まらない。
- ★事業の継続と承継に備える必要性が迫ってきた。

## 集積回路、機械受注・鉱工業生産指数の推移



# 建設業

## 入札額累計の推移



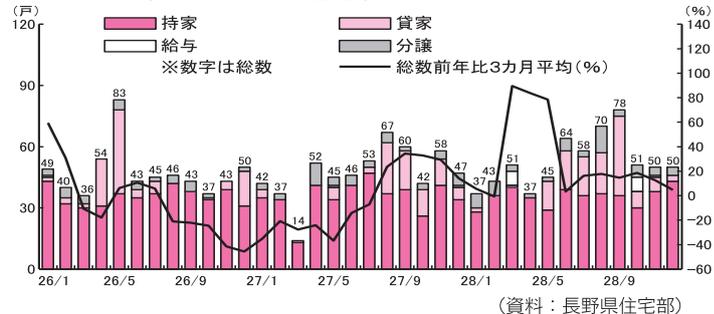
当月景況DI -18.8 (先月 -26.7)

翌月予測DI -13.3 (先月 -12.5)

集中度が高い業者は仕事が薄い様子で、住宅以外の民需主体の業者との受注格差が大きくなっている」との声が聞かれた。

一部に資材価格がやや上昇との声。雇用面や設備面では「様子を見る」などの声が多いが、「確保を予定」との声も聞かれた。

## 飯田市・下伊那郡 住宅着工戸数の推移 (用途別)



## 官公需

当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約14.3億円で、前月比は25%増加、前年比も71%増加している(2月15日調査時点)。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、やや減少～横ばいとの声が多い。「昨年とは比較にならないほど受注残高は減少」「年末年始に完成物件が集中し、受注残は減少」「補正予算が思ったほど付かない」「補正予算で三遠南信自動車道工事、天竜川堤防補強工事などが出始めている。とはいえ、例年よりも忙しくはない」「公共は仕事が少ない」などの声が多い。こうした中、「公共工事は相変わらず競争激化」「発注量激減で受注できない時期が未だに続いている」などの声は多い。

先行きの見方は分かれ、減少を見込む業者が複数ある一方で、「年度末を控え受注増の見込み」「三次補正で追加工事が発注になりそうと期待がもてる。県や市もいくつか発注になっている」との声も。

雇用面では、「技術者」は別として、「過剰気味。当分続く」「建築は不足気味だが、総じて過剰」など積極的な声は聞かれない。

設備面では、「測量機導入」「ICT機械」「プログラム」「車両、機械の更新」など積極的な声が多く聞かれた。

原材料、資材価格は、「ガソリン等が値上がり」「燃料等上昇」「石油製品やや上昇」も、概ね安定していた様子。

「公共工事は、大型のものと小規模のものとははっきりしてきたように思われる。当社は所在地域に必要とされる小規模な仕事のみを自社見積で受注して経営していく方針。機材を必要最低限に絞ることや、人員の自然減などで実現していきたい」との声が寄せられた。

## 民需

当地区の12月の住宅着工戸数は50戸。前月比横ばい、前年比は6%増加している。

当月の調査先業者の受注残高の前月比は、一部にやや減少との声も聞かれたが、横ばい～増加との声が多く、景況感が好転した業者も複数見受けられた。

住宅に関し、「新築住宅はポツポツ受注できているが、リフォームなども十分ではない」「住宅はそこそこ建築中の現場を見かけるが、各社利益を出すのに苦労しているのでは」「リフォームはやや増えている」などの声。

「リニアに関連して土地や民需が動き出し、活発になりつつある模様」「民間はリニューアル、設備投資がやや増えている」「相変わらず低調だが、小規模ながら工場を受注」などの声が寄せられ、「公共工事依

## 建設資材

塗料等建設資材の売上は、前月比、前年比ともやや減少も、先行きは上向きとの声が寄せられた。仕入価格、販売価格ともに大きな動きはなかった様子。雇用面で不足感があるとの声が寄せられた。

鋼材の売上は、前月比、前年比ともにやや減少、「冬季という季節的要因もあるが、それ以上に仕事量が少ない。業種、顧客を問わず受注が少なく、荷動きは低調」との声が寄せられた。仕入価格に関し、「メーカーの値上げ姿勢ははっきりしている」など先行きの上昇が見込まれているが、「荷動きが悪く、流通としては値上げに踏み切れない」という。

生コンの売上の前月比は、「正月休み」「例年の、天候不順と稼働日数減」等の季節的要因もあって減少。前年比は業者によって増減分かれ、「国交省関連の堰堤工事、三遠南信自動車道関連の工事が順調に打設できている。他の機関の発注にも期待」「前年比では若干増加も、過去最低の昨年とほぼ同じ水準。前月比の減少は例年通りだが、昨年同様、それを補うだけの官民の大型工事が無い。依然公共土木工事に頼らざるを得ず、次月も厳しそう。JR発注のリニア関連工事(残土運搬路トンネル)の出荷が始まったことは明るい材料」といった声が寄せられた。

骨材等の売上も、前月比、前年比とも減少。「生コン向け骨材の売上が減少。先月、当月と出荷が少ない」「例年あまり良くない月だが、今年は特に悪い」など景況感は総じて悪化。先行きの見方は分かれ、「今後も減少傾向」との声の一方、「2、3月は今月よりは良くなるだろう。三遠南信自動車道関連などの発注が複数出てきているので、4月以降の動きに期待」との声も。一部に雇用面、設備面で積極的な声が聞かれた。

### 【企業からのコメント】

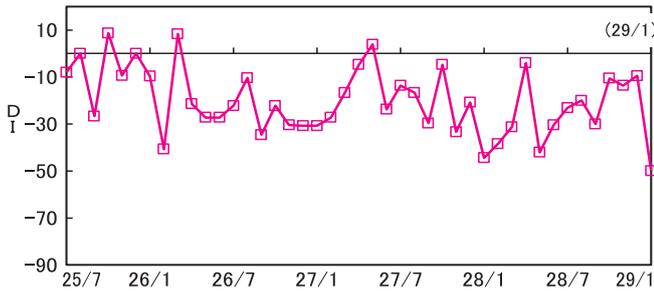
- ★景気は低迷し、状況は良くない。
- ★交通要員が不足しており、受注工事が円滑に進まない様子。
- ★仕事量が少なく、中小の規模だと財務に余裕がなければ厳しい。

### 住宅建築確認申請受付状況 (※本誌調査による概数)

- 1月 ○下伊那地方事務所
- 新築 10件 (前年 7件)
  - 増築 2件 (前年 3件)
- 飯田市役所分
- 新築 19件 (前年 20件)
  - 増築 0件 (前年 1件)
- ※指定確認検査機関分を含む

# 商業・サービス業

商業・サービス業DI



当月景況DI	-50.0	(先月 -9.5)
翌月予測DI	-25.0	(先月 -15.8)

## 商業

食品の売上の前年比は、一部にやや増加との声もあるが、やや減少との声が多い。「初売り等、行事の売上が伸びず全体的にマイナス」「高齢者等の買い物困難者が増加傾向にあることが売上減少の原因として考えられる。また、相変わらずの景気低迷等により業者による購入額も減少している」等の声が寄せられた。雇用面で「不足気味の状態が続いているが、今後の人員確保は困難」との声が寄せられた。

### 【青果卸売市場】

売上は前月比、前年比とも季節的な要因が大きく、減少という。

野菜は、「昨年末からの高値もあり特に白菜、キャベツ、人参、馬鈴薯、大根などの重要野菜の価格が依然として高く、入荷量はほぼ前年並みだったが価格は前年比6%高」という。

果実は、「野菜の高値の影響か、果実の売上はやや不振。要因として干し柿入荷が思ったより少なく、ふじは減収の影響、苺も寒波で入荷減、みかんは前年並みで、果実全体では入荷18%減、価格は5%高であった」との声。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや減少。今後の売上はやや増加を見込んでいるという。

家事用品卸の売上の前月比は、「12月は年間でも売上の多い月。1～2月は特に少ない」など、季節要因もあってやや減少。前年比はほぼ横ばいとの声。「寒さでカイロ等の季節商品は良かった。2月は少しずつ持ち直す見込み」という。

家電の売上は、前月比やや減少、前年比は増加。「寒さが厳しく小型温風機が順調に売上を伸ばした。温水ルームヒーターは、メーカーが生産をやめたこともあり低迷」という。「住宅設備関連は、大きな物件が無く苦戦。ハウスメーカーに押されているのも一つの要因」「自動車関連の工場は好調を保っており、制御機器を中心に売上を伸ばしている」等の声が寄せられた。

衣料品の売上の前年比は、「去年は改装セールがあった」ことなどからやや減少との声が寄せられた。雇用面で積極的な声も。

娯楽用品の売上は、「前月が年末商戦期であったため前月比は大幅ダウン。前年比は変わらず」という。

土産物関連の売上は、前月比減少～やや減少。「昨年の夏以降、前年比減が続いており、対応策が見つからず苦慮している」との声が聞かれた。仕入価格がやや上昇との声も。

松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比3%減少、前年比も9%減少。中古車は、前月比31%減少、前年比も11%減少。28年12月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は前月比6%減少、前年比も1%減少。中古車は前月比3%減少、前年比も4%減少した。

自動車販売、整備の売上は、前月比減少、前年比も

「昨年の新車特需の影響」もあって減少という。「2月、3月は中古車販売台数が増加する」ことから売上は増加の見通しで、これに伴い商品在庫の増加も予想されている。「今年では中古車が増加すると予想されているが、それが影響してオークションの相場が悪い。昨年より扱い台数が増加して粗利は確保できたとはいえ、昔のような新卒需要は感じられない」との声が寄せられた。「当地域の業界では整備工場を中心に新しく参入する人が増えている。世代交代もあるだろうが、若者がまだまだこの業界に魅力を感じている証のようにも思う。当社も再度自社の長所、短所を確認して生き残りを図らなければならない」との声が聞かれた。

## サービス業

市内料理店の売上の前年比は、概ね横ばい。「新年会の需要は例年通りあった気がする。とはいえ会社関係がやや少なく、新規のお客様をもう少し獲得したい」「宴会は、件数は例年通りあるのだが、出かけることが困難になったり、お亡くなりになったりで人数が減少している」などの声が寄せられた。「国際情勢の先行きの不透明感からか、新たな需要はあまり望めない雰囲気がある一方、入学祝、誕生祝など個人客を中心に小さな宴会は増えていて、必要な宴会は同じように皆開くところを見ると、あまり景気の悪さを実感していないようにも思われる」「良い話題がない。国際情勢はどうなるのだろうか」「一様に口を開けば景気が悪いという話しか入ってこない。経営者自身の意識改革が必要かもしれない」などの声が寄せられた。

市内旅館の売上は、景況感の悪化には至らないものの、前年比やや減少という。

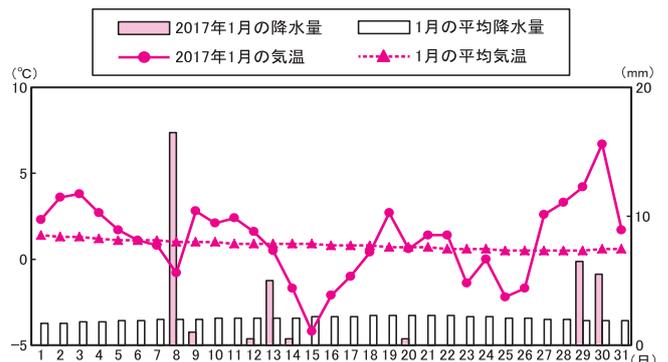
「オフシーズンに入った」昼神温泉の売上は、前月比減少。「暮、正月は前年並みだったが、3日以降は低迷。従業員を休ませている」「市内に集中するのか、宴会が特になかった」「スキー場は週末中心に賑わっているが、宿泊にはつながっていない」「2月からのふるさと一座昼神公演も、昼神全体の客層が変わったこともあってか、集客に影響が出ている」等の声。「若い人たちはほとんどがインターネットによる予約、カードでの支払いで、インターネット業者やカード会社への手数料も大きい」との声も聞かれた。

タクシーの売上は、前月比、前年比ともやや減少との声。「夜間の需要が全く戻らない状況」という。「お客様目線になって、業界がどう行動できるかどうまとまっていけるかを検討し、実行していかなければ今後の状況は改善されない」「公共交通としてのタクシー事業を発展させていく必要がある。また、市場規模と車両数の関係も検討し需給バランスの調整も必要ではないか」などの声が寄せられた。

### 【企業からのコメント】

- ★1月、2月は雪の影響が一番心配。
- ★リニア工事が始まり少しは消費が増えると思うが、大手は自分たちの今までの取引先を利用し、地元の店はほとんど利用しないとの話を聞く。

飯田の気温と降水量



## 日本一創業しやすい 県を目指して！

飯田信用金庫 経営相談所  
 中小企業支援アドバイザー 佐々木信高

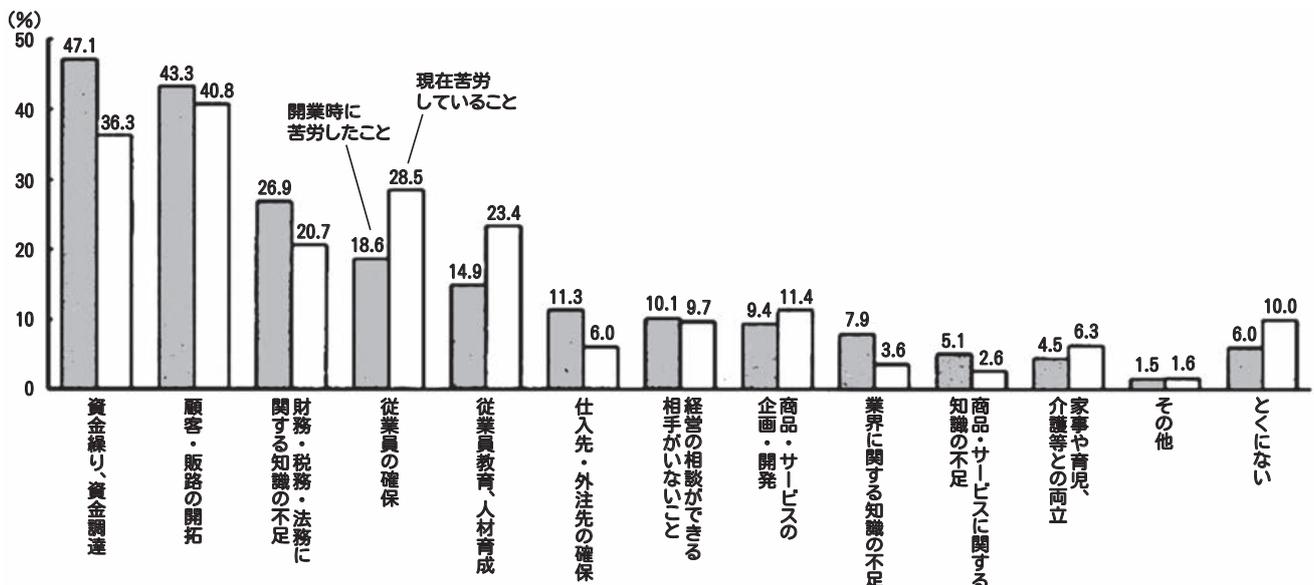
先日、長野県の中小企業支援や創業を支援する機関の会議がありました。出席者は、長野県をはじめ中小企業支援センター、創業支援センター、よろず支援拠点、金融機関、商工会、商工会議所等のアドバイザーやコーディネーター等で、多くの参加がありました。この折に、常日頃の支援機関の課題を研究討議するグループワークがあり、私は創業関連のグループに参加しました。

このグループは「①長野県が日本一創業しやすい県づくりを目指す中で、政策として重点的にどのような業種の創業を促していくべきか？」また、「②具体的な支援施策・連携強化について」をテーマに研究討議しました。

①の「今後、政策的にどのような業種の創業を促していくか？」については、現状、創業といえばサービス業や小売業の創業が主流であること、長野県が観光立県を目指す中で、全国で訪日外国人観光客が昨年2,000万人を超えたこと等を踏まえると観光業（ホテル・旅館・観光施設）やそれに付随する飲食業や小売業の創業支援に力を注いでいく方向が望ましく、さらに踏み込んで、観光業と農業とのコラボレーションも期待できるのではないかとこの参加者の意見でした。

②の「具体的な支援施策・連携強化について」では、現状、支援機関が多く、創業者はどこにどの様な相談をするのか創業者自身も解りかねているのではないかとこの問題意識の提起がありました。かつては、税理士や地元の商工会、商工会議所に相談するというケースが主流でしたが、数年前から前掲のように多くの支援機関が創業の支援をしています。図-1の様に、創業に当たっての課題は、お金のこと、経理や税務のこと、許認可のこと、労務のこと等、多岐に渡っています。

図-1 開業時に苦勞したこと及び現在苦勞していること（3つまでの複数回答）



(日本政策金融公庫：2015年度新規開業実態調査より)

多くの課題や悩みを抱える創業者に対し、支援機関では、できるだけワンストップで相談対応する方向にありますが、課題解決のために支援機関同士のやり取りも必要で、相互の連携はますます必要なことと思います。

図-2を見ると「創業の相談相手は誰か」という問いに、身近にいる者に相談している状況が半数を超え、「相談相手がいない」が1/4程度で、この図からは、支援機関との接点がいかに少なく感じます。

図-2 起業について相談できる相手（複数回答）

		起業家 (n=407)	18~29歳 (n=65)	30~49歳 (n=210)	50~69歳 (n=132)
相談できる相手がいる		74.2	84.6	74.3	69.8
人的 ネットワーク	友人・知人	65.8	76.9	69.1	56.8
	先輩起業家	32.7	38.5	35.2	25.8
	家族・親戚	27.5	38.5	31.9	15.2
	勤務先・元勤務先の経営者・上司・同僚・部下	23.8	29.2	26.7	16.7
	勤務先・元勤務先の取引先	14.0	12.3	17.1	9.8
専門家・ 支援機関	勤務先・元勤務先の取引先	6.1	6.2	4.8	8.3
	税理士・会計士	23.3	16.9	25.7	22.7
	商工会議所・商工会	16.5	7.7	18.6	17.4
	民間の金融機関	3.7	3.1	4.8	2.3
	経営コンサルタント	3.7	1.5	3.8	4.5
	日本政策金融公庫・沖縄振興開発金融公庫	3.4	3.1	3.8	3.0
	公的な創業支援機関（商工会議所・商工会、公庫を除く）	2.5	6.2	2.4	0.8
民間の創業支援機関	2.0	1.5	2.9	0.8	
その他	1.7	1.5	1.0	3.0	
相談できる相手はいない		0.2	0.0	0.0	0.8
合 計		25.8	15.4	25.7	31.1
		100.0	100.0	100.0	100.0

（日本政策金融公庫：2015年度 新規開業実態調査より）

長野県は、数年前から「日本一創業をしやすい県」をキャッチフレーズに創業に取り組んできています。

創業は一生に一度の事業で、他県の創業支援を経験することもなく、何を比較して創業しやすいというのでしょうか？ハードルが低い、あるいは、ハードルが無いということだとは思いますが、それは、窓口の支援機関が数多くあるということか。金融支援が充実しているのか。許認可が簡単なのか。補助金や助成金が充実しているのか。今ひとつ、創業者に見えていないことも事実です。

いずれにしても、創業者にとって支援機関が見えないのでは意味がありません。創業者にとって多くの課題がある中で、支援機関の連携はもとより、情報を一元化するような組織も今後必要になってくるのではないのでしょうか。

## 「経営力向上計画書」で稼ぐ力を強化しませんか？

### 【概 要】

「中小企業等経営強化法」が平成28年7月1日に施行され、中小企業・小規模事業者の生産性向上を支援することになりました。人材育成、コスト管理等のマネジメント向上や設備投資など自社の経営力を向上するための「経営力向上計画」をつくり認定された事業者は、税制や金融の支援等を受けることができます。

### 【ポイント1】

申請書類は実質2枚 ①企業の概要、②現状認識、③経営力向上の目標及び経営力向上による経営の向上の程度を示す指標、④経営力向上の内容など簡単な計画等を策定することにより、認定を受けることができます。

### 【ポイント2】

計画策定をサポート 認定経営革新等支援機関（商工会議所・商工会・中央会や土業、地域金融機関等）に計画策定の支援を受けることができます。また、ローカルベンチマークなどの経営診断ツールにより、計画策定ができるようにしています。

### 【ポイント3】

認定計画に基づき取得した一定の機械及び装置の固定資産税が半分に 計画認定を受けた場合、資本金1億円以下の会社、個人事業主などは、①160万円以上の機械及び装置であって、②生産性が年平均1%以上向上等の要件を満たせば、固定資産税の課税標準が3年間半額になります。

### 【ポイント4】

その他の金融支援もご用意計画認定を受けた場合、政策金融機関の低利融資、民間金融機関の融資に対する信用保証、債務保証等の資金調達に関する支援を受けることができます。

お問い合わせは、飯田信用金庫の各支店および経営相談所（電話 0265-53-5811）まで。

## 三遠南信地域の人口に関するデータ

去る平成29年2月15日(水)、三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA)主催による「第24回 三遠南信サミット2017 in 南信州」が、飯田文化会館、シルクホテルを会場に開催された。

今回の「第24回 三遠南信サミット2017 in 南信州」は、「“みち”がはぐくむ三遠南信の未来」をテーマに、三遠南信地域の35市町村の首長、49商工会議所・商工会の会頭及び会長、国会議員、県議会議員、市町村議会議員、国・県関係者、一般参加者などが参加して、全体会、分科会が開催され、弊庫理事長 森山和幸もトークセッションにおいて発言した。

本誌ではこれに因んで、三遠南信地域の人口に関する基礎データを掲載する。

### 1. 三遠南信地域の人口規模

平成27年国勢調査によると、三遠南信地域各市町村の人口は右表の通り。

これを合わせた人口規模は2,344,399人で、京都府に次ぎ、宮城県の人口を凌ぐ人口規模を有していることとなる。

南信州地域		遠州地域		東三河地域	
飯田市	101,581	浜松市	797,980	豊橋市	374,765
駒ヶ根市	32,759	磐田市	167,210	豊川市	182,436
飯島町	9,530	掛川市	114,602	蒲郡市	81,100
中川村	4,850	袋井市	85,789	新城市	47,133
宮田村	8,821	湖西市	59,789	田原市	62,364
松川町	13,167	御前崎市	32,578	設楽町	5,074
高森町	13,080	菊川市	46,763	東栄町	3,446
阿南町	4,962	牧之原市	45,547	豊根村	1,135
阿智村	6,538	森町	18,528		
平谷村	484				
根羽村	970				
下條村	3,851				
売木村	575				
天龍村	1,365				
泰阜村	1,702				
喬木村	6,310				
豊丘村	6,592				
大鹿村	1,023				
計	218,160	計	1,368,786	計	757,453

(資料：総務省「平成27年国勢調査」)

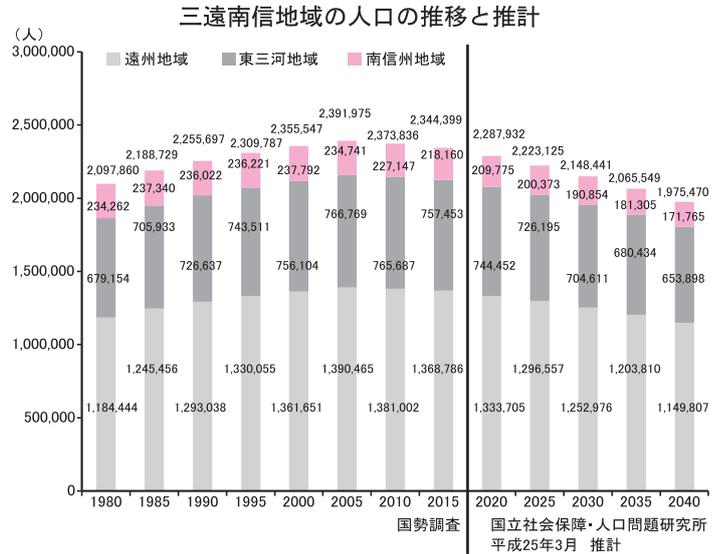
順位	都道府県、地域名	人口(人)	占有率(%)	順位	都道府県、地域名	人口(人)	占有率(%)
1	東京都	13,515,271	10.6%	24	鹿児島県	1,648,177	1.3%
2	神奈川県	9,126,214	7.2%	25	沖縄県	1,433,566	1.1%
3	大阪府	8,839,469	7.0%	26	滋賀県	1,412,916	1.1%
4	愛知県	7,483,128	5.9%	27	山口県	1,404,729	1.1%
5	埼玉県	7,266,534	5.7%	28	愛媛県	1,385,262	1.1%
6	千葉県	6,222,666	4.9%	29	長崎県	1,377,187	1.1%
7	兵庫県	5,534,800	4.4%	30	奈良県	1,364,316	1.1%
8	北海道	5,381,733	4.2%	31	青森県	1,308,265	1.0%
9	福岡県	5,101,556	4.0%	32	岩手県	1,279,594	1.0%
10	静岡県	3,700,305	2.9%	33	大分県	1,166,338	0.9%
11	茨城県	2,916,976	2.3%	34	石川県	1,154,008	0.9%
12	広島県	2,843,990	2.2%	35	山形県	1,123,891	0.9%
13	京都府	2,610,353	2.1%	36	宮崎県	1,104,069	0.9%
	三遠南信地域	2,344,399	1.8%	37	富山県	1,066,328	0.8%
14	宮城県	2,333,899	1.8%	38	秋田県	1,023,119	0.8%
15	新潟県	2,304,264	1.8%	39	香川県	976,263	0.8%
16	長野県	2,098,804	1.7%	40	和歌山県	963,579	0.8%
17	岐阜県	2,031,903	1.6%	41	山梨県	834,930	0.7%
18	栃木県	1,974,255	1.6%	42	佐賀県	832,832	0.7%
19	群馬県	1,973,115	1.6%	43	福井県	786,740	0.6%
20	岡山県	1,921,525	1.5%	44	徳島県	755,733	0.6%
21	福島県	1,914,039	1.5%	45	高知県	728,276	0.6%
22	三重県	1,815,865	1.4%	46	島根県	694,352	0.5%
23	熊本県	1,786,170	1.4%	47	鳥取県	573,441	0.5%

(資料：総務省「平成27年国勢調査」)

## 2. 三遠南信地域の人口の推移と推計

国勢調査による三遠南信地域の総人口は、2005年の2,391,975人をピークに2015年まで減少している。

国立社会保障・人口問題研究所平成25年3月推計による2040年の三遠南信地域の推計総人口は、1,975,470人で、2005年の約83%の水準となる。



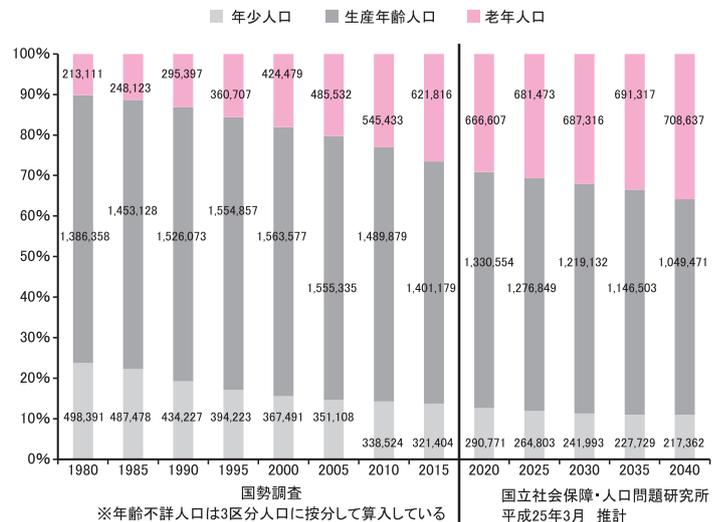
(資料：「リーサス」、総務省「平成27年国勢調査」)

## 3. 三遠南信全地域の、年齢3区分人口割合の推移と推計

平成27年国勢調査による、三遠南信地域全市町村の年齢3区分人口は、年少人口321,404人、生産年齢人口1,401,179人、老年人口621,816人だった。

国立社会保障・人口問題研究所平成25年3月推計による2040年の三遠南信地域全市町村の年齢3区分人口は、年少人口217,362人、生産年齢人口1,049,471人、老年人口708,637人となっている。

## 三遠南信全地域の年齢3区分人口割合の推移と推計



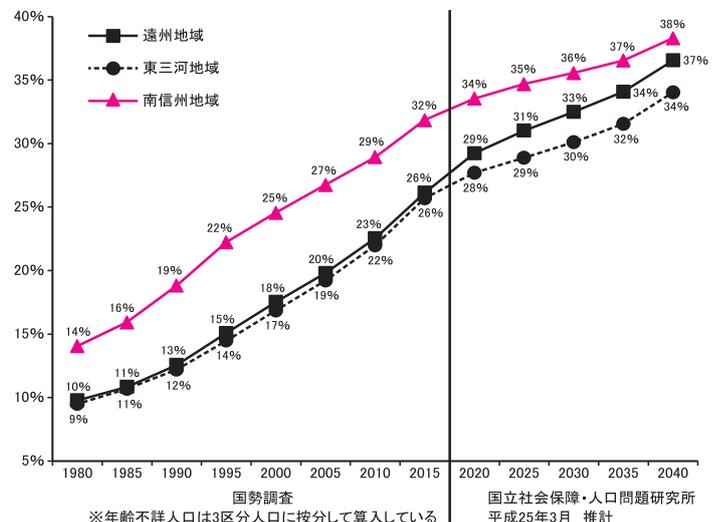
(資料：「リーサス」、総務省「平成27年国勢調査」)

## 4. 三遠南信各地域の高齢化率の推移と推計

平成27年国勢調査による、三遠南信各地域の高齢化率（65歳以上の老年人口が総人口に占める割合）は、南信州地域で32%、遠州地域、東三河地域で26%だった。

国立社会保障・人口問題研究所平成25年3月推計による2040年の三遠南信各地域の高齢化率は、南信州地域で38%、遠州地域で37%、東三河地域で34%となっている。

## 三遠南信各地域の高齢化率の推移と推計



(資料：「リーサス」、総務省「平成27年国勢調査」)